

コロンビア・ペルー大統領選挙にみる中南米の右派回帰

主任研究員 浦野 愛理

右派の勢力回復が顕著となった中南米の政治地図

中南米では2020年代前半に左派政権の誕生が相次ぐ「第二のピンクタイド（左派の潮流）」が起こったが、近年は右派回帰の流れが加速している。2025年はエクアドル、ボリビア、チリ、ホンジュラスの大統領選挙で右派・中道右派の候補者が相次いで勝利し、2026年もコスタリカに続き、コロンビアとペルーの大統領選挙で右派候補の勝利が濃厚となった。

コロンビア大統領選挙では、6月21日の決選投票で右派のアベラルド・デ・ラ・エスプリエジャ氏が、左派のイバン・セペダ氏を僅差で破り、24日に当選が確定した。同国初の左派政権であったペトロ政権下での治安悪化や経済運営への不満が高まる中、デ・ラ・エスプリエジャ氏は強硬な麻薬・治安対策や石油・天然ガス開発の再開などを掲げた。同氏はトランプ大統領から明確な支持を受けていたため、8月7日に発足する新政権ではペトロ政権下で悪化した対米関係の改善が見込まれる。

ペルー大統領選挙では、6月7日の決選投票で右派のケイコ・フジモリ氏が左派のロベルト・サンチェス氏を僅差で上回り、勝利がほぼ確実となった。ただし、サンチェス氏が不正を主張するなど最終承認までは緊張が続く可能性もある。同国では2021年以降、大統領の弾劾・罷免を繰り返す政治混乱が続いてきた。7月28日にフジモリ政権が発足すれば、鉱業・エネルギー分野での外国投資、治安対策の強化、対米関係の改善が見込まれるが、議会の分裂で政治が停滞するリスクも残る。

背景にあった左派政権への不満と米国による圧力

こうした右派回帰の背景には、現在の左派政権の経済運営や治安悪化に対する国民の不満がある。有権者はこれらの問題に対し政権交代による打開を期待しているとみられるが、右派の掲げる緊縮的な財政や強硬な治安対策は国民生活を抑圧する要素をはらむため、方向付けを誤ると一気に支持を失うリスクもある。昨年選挙で右派が政権を獲得したアルゼンチンでは緊縮政策や労働改革を巡り度々ストライキが発生しており、チリでも雇用や物価を巡る不満が政権運営を困難にしている。ボリビアでは燃料補助金削減を含む改革への反発から道路封鎖による抗議が拡大し、政府が全土を対象に最大90日間の非常事態を宣言して封鎖解除に乗り出す動きも。右派政権下で経済・治安の改善が実感されなければ、再び左派が勢力を取り戻す可能性も否定できないだろう。

また、親米右派政権の相次ぐ誕生には米国の圧力も背景にありそうだ。米国のトランプ政権は2025年12月に公表した国家安全保障戦略で西半球重視を示し、中南米への関与を強めている。選挙では右派候補への支持を公然と表明するなど、特に反米色の強い国には圧力をかけてきた。より直接的には、今年初めにベネズエラのマドゥロ大統領を拘束し、足元ではキューバへの圧力を強めるなど反米勢力の弱体化を狙っている。3月には中南米の親米右派諸国による軍事同盟として発足した「米州の盾」の初サミットを開催し、アルゼンチン、チリ、ボリビア、エクアドル、エルサルバドルなどの首脳が参加しており、コロンビアやペルーの新政権も加盟する可能性がある。

最大の注目点は、中国との経済的結びつきの強いブラジル

中南米で残っている左派政権は、ブラジル、メキシコ、キューバなどに限られてきた。メキシコはシェインバウム政権が米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）の見直しを巡り米国との協調を模索している。最大の焦点である10月のブラジル大統領選挙は、現時点で左派のルーラ現大統領がリードしているが、右派のフラビオ・ボルソナロ氏（ボルソナロ前大統領の長男）との接戦が見込まれ、選挙の行方は現時点で不透明だ。中国と経済的結びつきが強く、同国の大豆輸入で米国に替わり最大の供給国となったブラジルでも右派回帰となれば、米中関係にも影響は及び得る。ブラジル内では長年の課題である複雑な税制や行政手続きの改革が加速する可能性もあり、2億人市場が改めて注目を集めるかもしれない。

▽中南米における主要選挙

2025年		前回	今回	2026年		前回	今回
2/9 (4/13)	エクアドル大統領選挙	右派	右派	2/1 (4/5)	コスタリカ大統領選挙	右派	右派
8/17 (10/19)	ボリビア大統領選挙	左派	中道右派	4/12 (6/7)	ペルー大統領選挙	左派	右派
10/26	アルゼンチン中間選挙	右派	右派	5/31 (6/21)	コロンビア大統領選挙	左派	右派
11/16 (12/14)	チリ大統領選挙	左派	右派	10/4 (10/25)	ブラジル大統領選挙	左派	?
11/30	ホンジュラス大統領選挙	左派	右派				

(注) 括弧内は決選投票
(出所) 丸紅経済研究所作成

(執筆者プロフィール)

浦野 愛理 (Airi Urano)

URANO-A@marubeni.com

主任研究員

研究分野：マクロ経済、米国、中南米、日本、穀物

2016年に丸紅入社後、丸紅経済研究所にて国内マクロ経済・金融政策などの経済調査、原油・銅市況や環境・エネルギー政策などの産業調査に従事。現在は米国や中南米などの政治経済、穀物市況を担当。2020年から22年に内閣府（経済財政分析担当）へ出向。一橋大学商学部商学科卒業。

株式会社丸紅経済研究所

〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号

<https://www.marubeni.com/jp/research/>

(免責事項)

- 本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰属するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- 本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。